

日本財団のソーシャルイノベーター

下沢さん(八戸)選出

スポーツジムにデイサービス機能

一角にデイサービス機能があるスポーツジム「ライフジム」。その普及を目指す八戸市の「ニューフィットネス」代表の下沢貴之さん(43)が、日本財団(東京)が支援している、新たな発想を持ち社会課題の解決を目指すリーダー「ソーシャルイノベーター(SI)」に選ばれた。ライフジムの普及を通して、介護予防に力を入れる事業を提案。事業の実現には課題は多いが、高齢化の進行で膨らみ続ける社会保障費の抑制につなげたいと考えた。

(渡部優)



「ソーシャルイノベーター」に選ばれた下沢貴之さん(10日、八戸市)

同財団は今年、既成概念にとられない発想を持ち、高度化・複雑化する社会課題解決に向け、行政や企業などの垣根を越えたチームをまとめるSIを、全国から募集した。225件の応募の中から面接などを経て、6月までに下沢さんら11人を選出。それぞれが提案した事業計10件の推進へ、助成金各1千万円を支給した。

下沢さんは今回、「ライフジム運営協議会」を組織し、デイサービスとスポーツジムを同じフロアに集約する手法だけでなく、栄養士や理学療法士ら専門職の雇用も提案。通常のジム利用者にも多角的にアドバイスすることで、介護を必要とする人の増加を、早い時期から抑えたい考え

介護予防、社会保障費抑制へ

だ。介護保険制度の要支援1、2の人を対象にした通所介護などのサービスが、来年3月までに段階的に市町村事業へ移行されることを見据え、デイサービスの職員の配置や設備基準の緩和を各市町村に働き掛けることも、事業の柱とした。

「要支援1、2の人に対する職員の配置基準を見直し、ジムとデイサービスで職員や設備を相互利用する仕組みにしたい」と説明。デイサービス利用料を現行より2割低減できることを、全国の市町村に呼び掛ける方針だ。

現在、八戸学院地域連携研究センターや経営コンサルタント、医療専門職らとチームを組んで事業を進めている。下沢さんは「ジムの機能の充実にも力を入れ、年齢に関係なく健康や運動が身近にある環境をつくりたい」と意欲を示す。

日本財団は9月に都内で「ソーシャルイノベーションフォーラム」を開き、下沢さんら11人のSIが改めて事業の内容を発表。年間1億円の助成が受けられる特別SIを数人選考する。